

～美しい砂浜と松原をみらいへツナグ～

三保松原の景観改善の取組 10周年記念シンポジウム

令和6年2月24日(土)
13:30～16:00(13:00開場)

定員
500名

入場無料・事前申込制

【プログラム(予定)】

13:30～ 開演

13:35～ 基調講演『海岸景観とまちづくり(仮題)』

日本大学理工学部まちづくり工学科 教授 岡田 智秀 氏

14:35～ 清水海岸の変遷及び静岡県景観改善の取組紹介

14:50～ 休憩

15:00～ パネルディスカッション

テーマ①『三保松原の景観をまちづくりにどう生かすか』

テーマ②『三保松原を次世代にどのように引き継いでいくか』

16:00 終演

静岡市東部勤労者福祉センター

清水テルサ テルサホール

静岡市清水区島崎町223



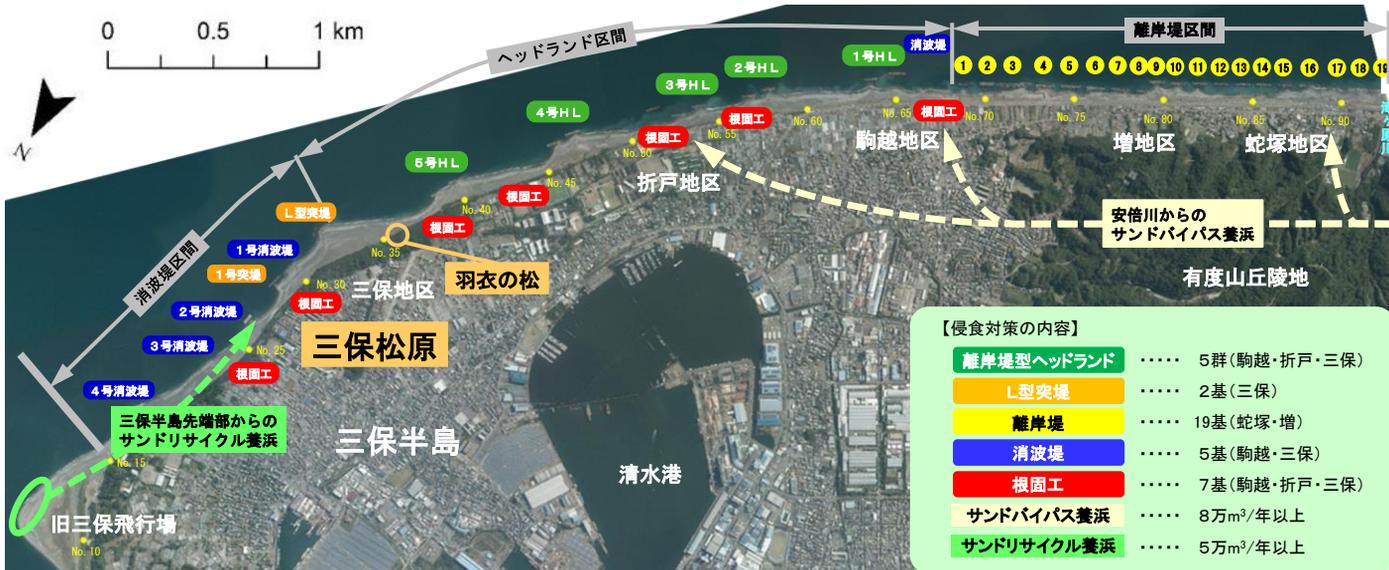
【主催】静岡県 【共催】静岡市 【後援】(一財)三保松原保全研究所 ほか

【協力】(一財)三保松原3ringsプロジェクト ほか

【お問合せ先】静岡県交通基盤部河川企画課 ☎054-221-3202 ✉kasenki@pref.shizuoka.lg.jp

静岡県静岡土木事務所企画検査課 ☎054-286-9322 ✉shizudo-kikaku@pref.shizuoka.lg.jp

清水海岸における海岸保全の取組



- ▶ 三保松原を含む清水海岸は、安倍川河口から供給された砂が波の作用によって海岸沿いに南から北へ流れることで砂浜のバランスが維持されています。
- ▶ ところが、**1950年代**に高度経済成長期のコンクリート骨材需要の増加に伴い、**安倍川で大量の砂利採取**（1968（S43）年に採取が規制されるまでの間に約870万m³もの砂利が採取された）が行われたため砂の供給が減少し、安倍川河口付近から北側に向かって徐々に海岸が侵食され始め、昭和60年代に清水海岸で侵食が始まりました。
- ▶ このため、清水海岸では侵食域が到達する前の1988（S63）年から離岸堤やヘッドランド、消波堤、L型突堤等の**対策施設**を設置し、更に2000（H12）年からは、侵食の原因である漂砂供給量の補填として、安倍川の土砂を運ぶ**サンドバイパス養浜**、2007（H19）年からは三保半島先端部に堆積した土砂を運ぶ**サンドリサイクル養浜**を進めてきました。
- ▶ 現在は、静岡海岸側から砂浜の回復が進みつつある状況ではあるものの、**三保松原の海岸まで回復域が到達するまでには長い期間を要する見込み**です。

海岸保全と景観改善の両立

- ▶ 2013（H25）年度に三保松原を世界文化遺産「富士山」の構成資産として登録する際に、**イコモス**から侵食対策のために設置した**消波堤が景観上望ましくない**との指摘を受けたため、海岸工学の専門家、景観、文化財の有識者等と共に、世界文化遺産にふさわしい景観への改善と海岸保全を両立するための検討を重ね、段階的に対策を実施することになりました。
- ▶ 長期的には、安倍川などから供給される土砂のみによって砂浜が維持され、**構造物に頼らない海岸の実現**を目指しますが、当面の対策として、砂浜が回復するまでの間、景観上の問題が指摘されている**消波堤の突堤への置き換え**を進めています。
- ▶ 1号消波堤の代替の1号突堤が2019（H31）年3月に完成したため、現在は、1号消波堤の撤去を段階的に進めるとともに、2号消波堤に置き換える2号新堤の整備に着手しています。



1号消波堤ブロックが小高い丘を形成し景観を阻害



部分撤去により景観への影響を軽減